

おいしい話

その⑩

【風の名前】

高橋 順子

先月、この国には雨の名前が多いことを記したが、風の名前も多い。私たちを取り巻く自然は時に牙を剥くけれども、平時私たちはそのふとろに抱かれて育まれてきたので、雨風と濃やかに付き合ってきた。

じっさいに人びとが使い、耳にした風の名前の数は『風の事典』によると、二一四五に上るそうだ。書物の上だけで吹いていた風や中国伝来の風を加えると、いったいいくつになるだろう。由緒正しい風もあるが、文字どおり風化してゆくものもあるのが、風らしくていい。写真家の佐藤秀明さんと私の共著『風の名前』の中に吹いている印象的な風を紹介しよう。

むかし福井県に東尋坊という怪力の悪僧がいて、崖の上で殺害された。のち夏の西寄りの暴風と断崖とは「東尋坊」と呼ばれる。「極楽の余り風」は盛夏に吹く一陣の涼しい西風。「星の出入り」は初冬の夜明け、スバルが西に入るところの東風。朝星の下に働く人びとに吹いた「玉風」は冬の北西季節風、暴風である。「霊風」がもとの名とか。「不通坊」は春から夏に福岡県で、人の行く手をはばんで強く吹く北風。